

総会を終えて

会長 萬徳 雅美

この冬は大雪が続きましたが、3月に入り少しずつ春の兆しを感じられるようになってまいりました。皆様には年度末を控えお忙しい毎日をお過ごしのことと思います。

総会に先立ち、過日会計監査を行いました。新型コロナウイルス感染症の流行第6波により、札幌圏との往来を避けるため、胆振支部に替って札幌高校支部にお願いし、石狩支部と札幌高校支部で監査を実施していただきました。

1年の事業を締めくくる総会は、昨年度に続き今年度も書面での開催となりました。本部からは、第1回支部長研修会の書面開催について提案しました。札幌小中支部からは第51回大会の報告がありました。石狩支部からは令和4年度実施の第52回大会についての提案がありましたが、総会后、昨今の新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、誌上開催と動画配信に変更いたしました。これまでコロナ禍において、「会員の皆様が少しでも学びを得られる大会にしたい」という思いで、よりよい形での実施を検討して下さった実行委員会の皆様に感謝申し上げます。次に、第53回研究大会について渡島・檜山支部の濱田実行委員長より、準備状況についての報告がありました。また、第54回研究大会主管については空知支部・宗谷支部が合同で担当して下さることで承認されました。御審議くださいました評議員の皆様、ありがとうございました。

この1年間、支部長・ブロック長をはじめ会員の皆様の御協力を得て、本部の業務を無事に終えることができました。今後もコロナ禍における研究大会の実施方法を、実行委員会の皆様と共に検討していきたいと思っております。次年度は本部四役の副会長・会計と6名の事務局員が交代になります。会員の皆様には、さらなる御協力、御支援をお願いいたしまして今年度最後の挨拶といたします。

令和4年度北海道養護教員研究大会案内

第52回北海道養護教員研究大会は、誌上開催と動画配信に変更いたします。

1 主 管 北海道養護教員会 石狩支部

2 内 容

特別講演 「子どものからだと心の現在地から

withコロナ/postコロナ時代の育ちと学びを考える！」

講師 日本体育大学 体育学部健康学科 教授 野井 真吾氏

講 座 1 「ネット・ゲーム依存の現状と関わり方のコツ」

講師 手稲溪仁会病院 精神保健科部長 白坂 知彦氏

講 座 2 「多様な性の中にいる子どもたちへの支援のあり方」

講師 公立学校教員 にじず札幌スタッフ 真田 陽氏

※特別講演・講座の内容は、研究集録に掲載するとともにオンデマンド配信も予定しています。

※研究集録の発行は、令和4年12月上旬を予定しています。



令和3年度 北海道養護教員会「総会」の報告



令和4年2月19日(土)に予定されていた令和3年度総会は、新型コロナウイルス感染症の感染急拡大により書面開催といたしました。評議員33名による書面表決の形で、下記の事項について審議・承認されましたことをお知らせいたします。

議事

- (1) 令和3年度事業・業務報告
- (2) 第51回北海道養護教員研究大会のまとめ
- (3) 令和3年度中間決算報告
- (4) 令和3年度会計監査報告
- (5) 第1回支部長研修会の実施方法の変更について
- (6) 令和4年度事業・業務計画案
- (7) 令和4年度支部長役割分担、副会長担当割当て
- (8) 令和4年度予算案
- (9) 第52回北海道養護教員研究大会について
- (10) 研究大会申合せ事項について
- (11) 第54回北海道養護教員研究大会担当支部について
- (12) 第53回北海道養護教員研究大会について
- (13) 支部提出議題
- (14) 次期役員選出 … 4ページに掲載



【第51回北海道養護教員研究大会のまとめ】

動画視聴後にお寄せいただいた講演・講座の感想は、現在HPで公開しております。3月25日(金)まで、閲覧することができます。

【R3中間決算・R4予算案について】

今年度は新型コロナウイルス感染症の流行で、会費を1,000円にし、例年同様の予算から執行させていただきました。様々な会が中止あるいは書面、Web開催になり、今後の決算で通常よりも多くの繰越金が見込まれます。

役員会で様々な場合を想定し検討を重ね、会費を値上げせずこの先の研究大会を維持できる金額を考慮し、令和4年度の会費も2,000円から1,000円に変更した予算案としました。

【第1回支部長研修会の実施方法の変更について】

第2回支部長研修会で提案後、15支部全てから賛成のお返事をいただきました。

したがって、次年度から第1回支部長研修会は書面開催とします。なお、「会計監査」及び「研究大会打合せ会」は実施とし、会計監査は出席支部で行います。

連絡事項

- (1) 令和4年度会員名簿等の作成について
- (2) 令和4年度会費納入依頼
- (3) 学校保健会会報「保健室シリーズ」執筆順番について
- (4) 全国組織の動向



令和4年度会員名簿の作成について

各支部長様へ「今年度の名簿データ」と「会員名簿等作成の手順」を送らせていただきました。

訂正後の名簿は、4月21日(木)までに庶務係井上奏恵(札幌市立有明小学校)にE-mailにて報告をお願いします。

令和4年度会費の納入について

会費は、一人1,000円です。各支部またはブロックごとに会員分をまとめて、ゆうちょ口座に送金してください。その後、第1回支部長研修会で配付するFAX用紙で報告をお願いしています。納入期限は7月31日(日)となっておりますので、よろしくお願いいたします

令和3年度全国学校保健・安全研究大会 参加報告

会長 萬徳 雅美

令和3年10月28日29日、岡山県において全国学校保健・安全研究大会がWeb開催されました。ライブ配信と録画配信があり、録画配信を視聴しました。

記念講演は、メディア出演等で有名な昭和大学医学部 内科学講座 臨床感染症学部門 客員教授 二木 芳人氏による「新型コロナウイルス感染症の現状と今後」と題した講演でした。日本や世界の感染状況についてデータとグラフを示しながら詳しい解説があり、第5波が広がった理由と急速な減少についての説明がありました。そして、必ず襲来する第6波への備えとして、波を小さく被害を最小限に抑えるためには、①ワクチン接種率のさらなる向上：全国民の80%を目標 ②感染対策意識の徹底：基本的感染防止対策の継続、感染リスクの高い行動を回避 ③保健所業務の見直し：コロナ対策に専念可能な体制にする ④医療提供体制を盤石に：無症状・軽症者への対応、自宅療養をゼロにする ⑤新規ワクチンや治療薬の開発加速：承認の迅速化、国産品への後押し、と五つを挙げました。新型コロナウイルス感染症のパンデミック終息に向けては、既存治療薬の承認・普及が2022年内、ワクチンの全世界・全地域への普及が2023年内、自然経過での集団免疫獲得が2024年頃、自然経過でのウイルス弱毒化で共存が2025年頃との行程を示されました。最後に、パンデミックが起こる原因は地球環境の破壊であり、できることから地球に優しい行動をとることが、パンデミックを少しでも遅らせる・減らせることに有意義であると結びました。

科学的根拠に基づいた丁寧なお話は説得力があり、あと数年は予防対策の継続とリスク回避の行動が必要であると気持ちを引き締めました。

第68回北海道学校保健・安全研究大会 参加報告

本部会計 鈴木 みさき

11月14日～21日、帯広市において開催予定だった標記の大会が、「生涯を通じて、心豊かにたくましく北の大地を生きる子どもの育成を目指して」を主題にWebにて開催されました。学校保健功労者表彰では、本会からは「つなぐ」2号でも御紹介させていただきました5名の先生方が表彰されました。

基調講演は「自分を傷つけずにいられない！～自傷行為の理解と対応」をテーマに、国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 薬物依存研究部部長 同センター病院薬物依存センター センター長 松本 俊彦氏が講演をされました。

まず、なぜリストカットするのかについて述べられました。リストカットによって怒り、不安、強烈で辛い気持ちなど、不快感情が軽減されるとのことです。自傷後にはエンドルフィンなどの脳内麻薬が増加し、体の痛みが「鎮痛効果」をもたらします。皮膚を切ることで辛い記憶や感情を自分の生活史から「なかったこと」にしているのです。しかし、自傷は骨折に対してただ鎮痛剤を投与するだけと同じことなので、困難な現実がより深刻になり、鎮痛効果は慣れが生じやすく自傷がエスカレートし、昔耐えられたストレスにも耐えられなくなります。自傷行為は周囲へのアピールと取られることもあります。人に伝える自傷は全体の4%、誰にも相談しない96%の自傷が圧倒的に多いそうです。対応の原則は冷静に反応することで、「何かあったんだろうな」を想像しながら、傷の観察と必要な処置をします。

「何でこんな事をした」は答えようがなく、「傷つけちゃダメ」はできないことを言われて余計に嫌になるだけ。「切りたい」「切りたくない」自傷のメリットデメリット、両価性に共感しながら、何が苦痛で何が楽なのかモニタリングさせ、トリガーに気付いたら評価することが大切とのことでした。

第51回大会オンデマンド感想

副会長 荒井 咲紀

今回の研究大会は、日々変わっていく昨今の情勢の中、札幌小中支部の皆様を中心に検討され、講演講座講師の方々の御協力のもと、細やかな打ち合わせを重ねられたことで、オンデマンド配信という形が実現したのだと感じています。心より感謝申し上げます。

特別講演では、「学校における災害時・緊急時の対応～養護教諭のためのトリアージ～」をテーマに、START 法トリアージについて学びました。東日本大震災で、ある学校が重症度判断を求められた事例にもあるように、災害発生時、学校で多くの傷病者が発生する可能性があり、養護教諭は緊急度重症度の判断と適切な処置が求められるため、その判断に至った根拠となる知識（傷病者の状態がどうあるのか）を身に付ける必要があると感じました。

第2講座では、「からだからのアプローチ」をテーマに、運動の苦手さの原因について複数の要因が挙げられ、それらは関係し合っていることを学びました。原因の一つである、「ものをとらえる力(見る力)」の中で、ナンバータッチなどのビジョントレーニングが紹介されました。最新のデータによると、子どもがスマホなどを所持する時期が低年齢化しているとあり、一点を見ることが多くなるこれらを使用する時間が長くなるほど、眼を動かす力が発達しづらくなっているように思いました。以前、黒板の文字を書き写すのが、他の児童に比べて時間がかかる児童がいるという話を担任から聞いたことがありました。講座から、眼を動かす力が弱いと、字を書き写すことが苦手にもつながることがわかり、眼を動かす力を楽しく鍛えることができる、ビジョントレーニングの必要性を感じました。

多くのことをオンデマンド配信・研究集録から学びました。自分の知識にするだけではなく、教職員や保護者にも交流し、子どもたちへの還元に努めていきたいと思っています。

令和3年度 役員

| | | | |
|-------|-------|---------------|--------|
| 会 長 | 萬徳 雅美 | 市立札幌新川高等学校 | (札幌高校) |
| 副 会 長 | 黒江あゆみ | 札幌市立幌西小学校 | (札幌小中) |
| | 鈴木 美和 | 札幌市立手稲中学校 | (札幌小中) |
| | 荒井 咲紀 | 稚内市立稚内港小学校 | (宗 谷) |
| | 高橋 夢奈 | 厚岸町立真龍小学校 | (釧 路) |
| 事務局長 | 堂腰 律子 | 北海道札幌西高等学校 | (札幌高校) |
| 会 計 | 鈴木みさき | 札幌市立発寒小学校 | (札幌小中) |
| 会計監査 | 新保 靖絵 | 恵庭市立恵庭中学校 | (石 狩) |
| | 岩渕有美子 | 登別市登別中学校 | (胆 振) |
| 事務局員 | 丸山 紀子 | 北海道科学大学高等学校 | (札幌高校) |
| | 内田 望月 | 札幌市立中央幼稚園 | (札幌小中) |
| | 岡田 真弓 | 札幌市立菊水小学校 | (札幌小中) |
| | 神 亜矢 | 札幌市立新札幌わかば小学校 | (札幌小中) |
| | 塩野 美帆 | 札幌市立稲穂小学校 | (札幌小中) |
| | 佐藤 史佳 | 札幌市立あやめ野小学校 | (札幌小中) |
| | 井上 泰恵 | 札幌市立有明小学校 | (札幌小中) |
| | 西村 繭 | 札幌市立光陽小学校 | (札幌小中) |
| | 高橋 宏美 | 札幌市立札幌苗緑小学校 | (札幌小中) |
| | 上野 恵美 | 札幌市立南小学校 | (札幌小中) |

令和4年度 新役員

| | | | |
|-------|-------|-------------|---------|
| 会 長 | 萬徳 雅美 | 市立札幌新川高等学校 | (札幌高校) |
| 副 会 長 | 鈴木 美和 | 札幌市立手稲中学校 | (札幌小中) |
| | 桃井 直美 | 恵庭市立恵み野旭小学校 | (石 狩) |
| | 佐々木舞子 | 美唄市立中央小学校 | (空 知) |
| | 遠藤 有紀 | 網走市立第四中学校 | (オホーツク) |
| 事務局長 | 堂腰 律子 | 北海道札幌西高等学校 | (札幌高校) |
| 会 計 | 岡田 真弓 | 札幌市立菊水小学校 | (札幌小中) |
| 会計監査 | 佐藤 真由 | せたな町立瀬棚中学校 | (檜 山) |
| | 山本ゆりか | 北海道礼文高等学校 | (宗 谷) |
| 事務局員 | 丸山 紀子 | 北海道科学大学高等学校 | (札幌高校) |
| | 内田 望月 | 札幌市立中央幼稚園 | (札幌小中) |
| | 館入あゆみ | 札幌市立栄緑小学校 | (札幌小中) |
| | 池上 佳那 | 札幌市立白楊幼稚園 | (札幌小中) |
| | 小川 美和 | 札幌市立もみじ台中学校 | (札幌小中) |
| | 若狭智恵美 | 札幌市立羊ヶ丘小学校 | (札幌小中) |
| | 井上 泰恵 | 札幌市立有明小学校 | (札幌小中) |
| | 加納由紀子 | 札幌市立澄川中学校 | (札幌小中) |
| | 木村 瑞枝 | 札幌市立発寒南小学校 | (札幌小中) |
| | 澤田 正代 | 札幌市立稲積中学校 | (札幌小中) |